

# 連携の実効性担保に向けて

## ～香川地域継続検討協議会 設立4周年記念シンポジウム～

### 開催の目的

南海トラフの巨大地震災害の発生により、被害は個々の組織に止まらず四国地域全体に及ぶ恐れがあり、四国が機能不全に陥る恐れが予想されます。このような事態に対応するため香川地域継続検討協議会では、連携を前提とした戦略的な取り組みとして地域継続計画(District Continuity Plan:DCP)を策定推進してきました。本取り組みは「四国地震防災基本戦略」に位置付けられています。

このような観点から香川大学では、これまで事務局機能を担ってきた危機管理研究センターを再編整備し、全学体制でこの計画を推進できるよう新たな組織として「四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構」を設置しました。

本シンポジウムでは、香川地域の重要機能を担う組織が集う「香川地域継続検討協議会」の活動報告とあわせて、この取り組みが四国全体の地域継続力向上に寄与するための方策を考える場としたいと思っています。

**日時** 平成28年6月3日(金) 13:30~17:20 (受付13:00~)

**場所** 高松サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

香川県高松市サンポート 3-33 定員100名(参加費無料)  
(JR高松駅から徒歩約3分、ことடன்高松築港駅から徒歩約7分)

### ●挨拶 (13:30-13:40)

畠中 秀人 (国土交通省四国地方整備局 企画部長)

### ●第1部 活動報告 (13:40-14:45)

- 『四国の地域継続力向上を目指して ～香川地域継続検討協議会の活動報告～』  
白木 渡 (香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先端教育研究センター長・特任教授)
- 『熊本地震における初動対応の課題と対策』  
岩原 廣彦 (香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先端教育研究センター副センター長・特命教授)
- 『地震津波による広域複合災害への備え ～四国強靱化における新たな課題～』  
金田 義行 (香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構地域強靱化研究センター長・特任教授)

### ●休憩 (14:45-14:50)

### ●第2部 パネルディスカッション (14:50-17:10)

『連携の実効性担保に向けて～応援受援に必要なヒト・モノ・コト～』

- ◆話題提供「仮:東日本大震災における応援・受援の実態」  
佐藤健一 (元 気仙沼市総務部危機管理監兼危機管理課長)
- ◆登壇者  
市川太一 (恵那市総務部財務課総括主査) (釜石市)  
福田泰弘 (高松市健康福祉総務課主査) (いわき市)  
白井浩之 (東かがわ市総務部総務課危機管理室副主幹) (東松島市)  
我謝 賢 (兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課) (石巻市)
- ◆コーディネーター  
白木 渡 (香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 危機管理先端教育研究センター長・特任教授)



### ●閉会挨拶 (17:10-17:20)

笥 善行 (香川大学理事・四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長)

主催/香川地域継続検討協議会

共催/四国南海トラフ地震対策戦略会議・香川大学危機管理教育・研究・地域連携推進機構

土木学会安全問題研究委員会